



昭和の古き良き雰囲気が漂う店内
コーヒーを飲みながら過ごす時間は格別です



人気のチョコレートパフェ(左)「鉄板カツミート」(中央)「焼きそば風スパゲティ」(右)
その他、コーヒーなどのドリンク、ホットケーキなどスイーツも楽しめます



お客様との出会いを大切に、お店を守り続ける
店主の黒松さん



入船十字街を天狗山方面へ向かっていくと、赤いレンガ調の外壁に三角屋根がひと際目を引く可愛らしい外観の喫茶「ルナパーク」。昭和にタイムスリップしたかのような店内は、レトロな照明やワインレッドのベルベットソファァーが並ぶ落ち着いた雰囲気です。

の目に留まり、週末には多くのお客様で賑わいます。レトロな雰囲気を奏でる非日常の空間がインスタグラムやYouTubeで発信され、新しい出会いへと繋がっています。しかし、「ソファァーやテーブルも古くなり、補修やバリアフリー化なども考えています。レトロな雰囲気を味わいたい、楽しみたいとの声が多く、店内改装を行うか悩んでいます」と黒松さん。

ルナパークは、コーヒー好きの店主の黒松 直樹さんの先代(店主の母)が、昭和55年に自宅の庭を改装し、夢であった喫茶店を始めました。当時、周囲からは、郊外での営業は集客が難しいと反対もありましたが、開店当初から行列ができて、その後常連のお客様が増えていき、今では老若男女問わず幅広いお客様から愛されています。店名は、母が好きだった萩原朔太郎の詩集「遊園地(るなばあく)にて」が由来となつているそうです。10年前に母が他界したあとは奥様の真由美さん、お姉さんの3人でお店を切り盛りしています。家族ならではのチームワークで接客や美味しいランチやコーヒーを提供しています。真由美さんの人の心をつかむ軽妙なトークが居心地の良さに繋がっていると感じました。

「非日常を求めて多くの方が来店されますが、お客様のために毎日料理を作ること、この店そのものが私にとっては日常です。体が動く限り、この場に立ち続けていきたいと考えています」と秘めた思いが伝わってきました。

昭和レトロがブームとなつている中、SNSなどで若者や観光客

「非日常を求めて多くの方が来店されますが、お客様のために毎日料理を作ること、この店そのものが私にとっては日常です。体が動く限り、この場に立ち続けていきたいと考えています」と秘めた思いが伝わってきました。

長く愛されるお店へ

大勢のお客様で賑わい、あわただしく過ぎていく昼どきとは打って変わって、夕方にはゆったりとした時間が訪れます。「このお店は不思議と一瞬で雰囲気を壊えてくれる。朝・夕は、本来の喫茶店の空間を味わう方がコーヒーを楽しみながらそれぞれの時間を過ごされています」。

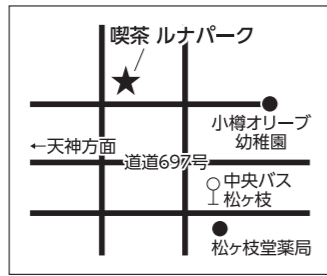
「非日常を求めて多くの方が来店されますが、お客様のために毎日料理を作ること、この店そのものが私にとっては日常です。体が動く限り、この場に立ち続けていきたいと考えています」と秘めた思いが伝わってきました。

長く仕事を続けている中で、印象に残っている出来事はいくつもあります。小さい頃からご家族と共に来店していた20代のお客様から「いつもおいしいご飯をありがとうございます」と書かれた紙ナプキンがテーブルに置かれていました。他の人からみれば些細な出来事かもしれませんが、とてもうれしい瞬間だったそうです。

「非日常を求めて多くの方が来店されますが、お客様のために毎日料理を作ること、この店そのものが私にとっては日常です。体が動く限り、この場に立ち続けていきたいと考えています」と秘めた思いが伝わってきました。

このような経験もあり、「お店に来たときは、気持ちよく過ごして、良い思い出を持って帰ってもらいたい」と美味しい料理や接客を通して、お客様の気持ちに伝えたいと考えています。

また、子どもの頃に来店してくれたお客様が、自分のお子さんと一緒に30年ぶりに来店してくれたこともあり、大変感動したそうです。



喫茶 ルナパーク
小樽市松ヶ枝1丁目21番5号
TEL: 0134-32-9789
営業時間: 9時30分~19時(ランチ11時30分~15時)
土、日、祝日11時~19時
定休日: 月曜日



ホームページ